

特集

第27回 都市公園コンクール

会員3社が国土交通大臣賞、日本公園緑地協会会長賞を受賞

10月28日に日比谷公会堂で開催された平成23年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会で、第27回都市公園コンクールの受賞作品が表彰された。本コンクールは、設計、施工、材料、工法、施設および管理運営に係る優秀な作品を表彰するもので、当協会の会員から、国土交通大臣賞を(株)沖縄庭芸が、(社)日本公園緑地協会会長賞を箱根植木(株)と(株)富士植木がそれぞれ受賞した。今回の特集では、受賞した3作品を紹介する。

国土交通大臣賞

首里城書院・鎖之間庭園の復元

株式会社 沖縄庭芸

●首里城書院 鎖之間庭園の復元までの推移

首里城書院・鎖之間(さすのま)庭園は、首里城南殿と渡り廊下で連なる書院と鎖之間の南側に接する首里城唯一の本格的庭園である。この庭園の大きな特徴といえば、琉球石灰岩の岩盤による露石とリュウキユウマツとソテツを中心に植栽された庭園ということである。

城は損壊し、書院・鎖之間庭園も損壊をした。そして、戦後琉球大学が建てられた際に露石の一部が削り取られ、特に鎖之間側での損傷が激しかった。

首里城書院・鎖之間庭園の復元の工事に至るまでには、平成13年度から平成14年度にかけての発掘調査や現存する琉球庭園や他県の庭園の事例調査、古絵図や古写真の資料、中国からの使者・冊封使により記録さ

れた冊封使録の文獻、また、書院・鎖之間庭園について知る方や植物の専門家及び琉球庭園の専門家等へのヒヤリングを通して資料が収集され、琉球庭園復元検討委員会(以下検討委員会と

い)において議論がなされ庭園の復元に至った。●造園工(露石の再生) 露石は、今回の工事の骨格をなす重要な工種である。露石の表面を自然岩風に仕上げることになるが、

懸念事項として次の項目があった。イ、職人の選定はどうするのか。ロ、石を研った時のノミ跡が不自然に残るのではないか。ハ、切石を階段状に積み上げるので、その合端が仕上げ後に表れるのではないかと。ニ、表面を薬品で処理することが出来ないか。ホ、自然石の表面をカットして張り付ける方法は可能なのか。

二とホについては試験やサンプルを作成して検討委員会でも検討した結果、次のように決定した。イ、職人は、以前にも露石の再生に関わった沖縄県立芸術大学の彫刻家の先生達にお願いすることで了承。ロ、ノミ跡は経年変化で目立たなくなる。ハ、合端は白セメントに石粉を混ぜ充填することで目立たなくなる。ニ、薬品による植物や他の

構造物への影響の出るおそれがあるので行わない。ホ、表面の仕上げは元の石材によって色合いや風化具合などに違いが出来るやうで行わない。これらの決定により本格的な露石の施工へと入った。施工に先立ち、まず注意したことは、書院と鎖之間が一般に公開されていることと露石の加工の際、粉塵が飛散することである。そのため次のような処置を行った。

①建物内にアクリル製の雨戸を設置。②ヨシズを透明なシートで覆う。③露石の加工の際は、さらに防塵ネットを設置。これらの処置で粉塵からの建物の保護及び来園者への不快感の低減に努めた。施工は、工場で切石に加工した琉球石灰岩を階段状に積み上げ、削岩機を用いて第一次加工として荒削り

を行い、第二次加工で造形作業(表面の仕上げ)に入る。仕上げを彫刻家の先生達が行ったこと、また、監修委員が指導や助言をし、検討委員会でもさらなる監修を行った。それらの方々のご尽力によって復元という目的を達成できた。

●着工まで

日本公園緑地協会会長賞

(仮称)阿佐谷北公園(Aさんの庭)

箱根植木 株式会社

北公園の予定地には、昭和初期の杉並の文化・生活を今に伝える住宅と緑豊かな庭がありました。この空間は、長い間、地域のみならず親しまれ、また宮崎駿著「トトロの住む家」(朝日新聞社)でも紹介されました。この住宅の取り壊し

の危機に直面した際に、地域住民により保存の為に署名活動が起こり、杉並区役所に陳情活動が続けられました。そこで、杉並区では、この土地と隣地を買い上げ、建物と庭の雰囲気を生かした緑豊かな公園として整備することを決定したのです。

の危機に直面した際に、地域住民により保存の為に署名活動が起こり、杉並区役所に陳情活動が続けられました。そこで、杉並区では、この土地と隣地を買い上げ、建物と庭の雰囲気を生かした緑豊かな公園として整備することを決定したのです。

を取り入れながら設計を進め、平成21年度に整備・開園する予定でしたが、平成21年2月の公園計画地内の住宅火災により、住宅は焼失してしまいました。以前から住宅と庭を知る宮崎駿監督は、その火災を知り、杉並区に、その雰囲気を風景として継承する公園デザイン

の提案をされました。その後、地域住民の意見

を取り入れながら設計を進め、平成21年度に整備・開園する予定でしたが、平成21年2月の公園計画地内の住宅火災により、住宅は焼失してしまいました。以前から住宅と庭を知る宮崎駿監督は、その火災を知り、杉並区に、その雰囲気を風景として継承する公園デザイン

の提案をされました。

の提案をされました。



宮崎駿監督のイメージをもとに設計



昔からあった雰囲気を感じ

とデザイナーの方が描き、スケッチは宮崎監督ご自身が描いたものとなっており、設計・整備をすすめたのです。●着工から完成まで

現場の担当者として施工にあたり、初めてこの地を訪れたときの印象は、火災の跡は残っていましたが「なんて落ち着いた素敵な

現場へ乗り込む前は「雰囲気」を形にするにはと頭を悩ませましたが、実際に

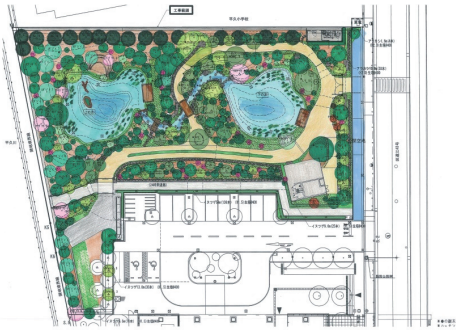


中庭に切石を設置



完成した中庭

(3面に続く)



バイオガーデン全体平面図



樹木の植えつけ方を工夫

この周辺は運河に囲まれ、「門前仲町」という駅名の通り富岡八幡宮、深川不動尊などもあり下町の雰囲気の色濃く残っており、運河沿いの「みどり」や境内の「みどり」なども多く残っているところだ。

完成、オープンから約1年になりますが、この公園はますます、緑豊かである美しい落ち着きのある、多くの方々が訪れる空間となっており、これは、近隣住民の方々「公園をだて組」として協力し合いながら、門の開閉、植物の管理などを行っていただいていることも、大きな要因であると考えられます。

このように、近隣住民の方々、発注者、設計者をはじめ多くの方々のご協力により、平成22年7月に公園のオープンを迎えることが出来ました。オープンの際には数百名が参加し盛大なセレモニーが行われ、あらためてこの「場所」に対する関心の高さ、愛着の深さを感じ、そのような場所を公園として整備させていただくというプロジェクトを担当させていただいたことに、喜びを感じました。

●周辺環境
ギャザリアビオガーデン「フジクラ木場千年の森」(以下BG)は、地下鉄東西線「木場駅」直近に位置する民間企業(株)フジクラが所有する工場跡地にオフィスビルと商業施設が建ち、日々多くのビジネスマンと買い物客で賑わう再開発エリア「深川ギャザリア」の敷地の一角にあります。BGは運河「平久川」沿いに約2200㎡の敷地に計画されました。

●計画・設計コンセプト
BGの計画・設計にあたり、設置者(株)フジクラと設計者(PPM・株)グラックは「生物多様性の回復、地域住民への自然環境のふれあいの場の提供」

●施工者のかかわり
基本計画では、平久川沿いから「上池」「流れ」「下池」と下池を周回する園路

日本公園緑地協会会長賞

「フジクラ木場千年の森」

株式会社 富士植木

環境学習時に利用できる建物、池に迫り出した観察デッキ、各種石積み、多彩な植栽(高木・地被類・水草108種)からなる「ピオトープ」を創出すること

こと、さらに設計者のイメージが代理人へ伝わったことは完成への大きなステップとなりました。

植えつけ方には大変気を使いました。これ以外にも、園路舗装、流木、リターAO層、デッキ材など景観上ポイントとなる部分の使用材料についても、設計者と施工者が知恵を出し合いながらの施工でした。池に放流する魚については皆で埼玉県内の高麗川支流へ向き、地元漁業組合の許可を得て採取してきました。

(2面の続き)
ために、既設の構造物や植物をなるべく壊さないよう、既設の施設・植物の養生をしっかりと行い、必要最低限のみの撤去を行うようにして、基本的には人力にて施工を行いました。また既設物の撤去においても、公園の一部として利用できそうなものがあれば、処分せず再利用をするよう

に努めました。樹木の剪定も新しく出来る建物となじむようになるべく自然樹形を生かし、昔からあった雰囲気大切にしながら行いました。

②材料の選定
使用材料については、すべての主要材料について、実物サンプル等を用意して、発注者・設計者の方々と確認をしながら選定をし

④完成
このように、近隣住民の方々、発注者、設計者をはじめ多くの方々のご協力により、平成22年7月に公園のオープンを迎えることが出来ました。オープンの際には数百名が参加し盛大なセレモニーが行われ、あらためてこの「場所」に対する関心の高さ、愛着の深さを感じ、そのような場所を公園として整備させていただくというプロジェクトを担当させていただいたことに、喜びを感じました。

完成、オープンから約1年になりますが、この公園はますます、緑豊かである美しい落ち着きのある、多くの方々が訪れる空間となっており、これは、近隣住民の方々「公園をだて組」として協力し合いながら、門の開閉、植物の管理などを行っていただいていることも、大きな要因であると考えられます。

箱根植木(株) 藤本健夫

学会の日・眼・芽 第30回

本年11月12日(土)13日(日)の2日間、日本造園学会の全国大会が、東京農業大学で開催されました。初日の12日には、震災復興支援ワークショップ、臨時総会、公開シンポジウム、交流会などが開催され、13日には、研究発表会を中心に、ミニフォーラムや分科会等が行われました。

平成23年度日本造園学会の活動と研究動向

に関するテーマも見受けられます。さらに、「祭祀文化景観」、「地域の風景ポテンシャル」、「風景の近代の諸相」、「文化的な風景の保全」など歴史・文化的な側面から地域の歴史を扱った研究や、「集住のランドスケープ」といった居住環境整備に関するテーマなど地域の歴史・文化・自然資源を保全・活用した地域環境のあり方を探った研究が見られます。景観法はもとより、国土交通省の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(平成20年11月施行)」「歴史まちづくり法」や、文化庁の文化財保護法の一部改正(平成16年)による「重要文化的景観の選定制度」が制定されており、今後もこれら分野の研究はますます増加するものと思われま

一方、文科省での小・中学校での「総合的な学習の時間」が平成12年に導入されて以降、「教育プログラムの実践」、「子ども遊び・居場所」といった環境教育等に関する研究や子ども視点から見た空間のあり方に関する研究が数多くあり、現在もこの傾向は継続されています。また、「緑地環境の解析評価」「熱環境と緑」「環境の認識・評価」「施設緑化の手法と機能」といった緑地の評価や緑化手法・技術に関するテーマは継続して多く、「ランドスケープ計画と制度」といった計画面や制度・政策面に関するテーマにも取り組まれています。さらに、行政での自治基本条例・まちづくり条例策定にも相まって計画型まちづくりが進められる中で、「公園づくりと市民」、「地域資産の活用」、「まちづくりと市民意識」など、市民参画型の都市公園づくりやまちづくり、地域コミュニティの醸成を目指した研究が数多くなっています。最近の特色であるといえます。

現在の社団法人日本造園学会は、公益法人日本造園学会として移行していく予定であり、今までの会員サービスに加え、一般市民へのサービスがより求められるようになります。今後も、安全・安心な国土形成と生活環境の創造、緑豊かであり潤いのある快適な都市環境形成ならびに良好な景観の形成に向け、全国大会や支部大会でのシンポジウムやフォーラム等の各種取り組みの実践や研究活動にも積極的に取り組んで参ります。会員の皆様のご協力ならびに積極的な学会へのご参画をお願い致します。

(社)日本造園学会理事、大阪府立大学大学院准教授 下村 泰彦

東京都支部

全国造園フェス東京大会

震災復興支援の取組み

第9回日比谷公園ガーデンニングショー2011が10月22日(30日)に日比谷公園内で開催された。東京都支部では、その期間内の10月27日(30日)の4日間、「全国造園フェスティバル2011東京大会」を開催した。今年度は「震災復興支援」を主要テーマとしてイベントを企画した。

その目的は、原発事故の風評被害で、福島県産の農作物が売れなく、復興の妨げになっている事に対して、福島産の米は安全で美味いことを市民にアピールして、小さな購買運動を起すこと、及び市民に震災復興支援を呼び掛け、米の売り上げを復興義援金として現地に送り復興の応援をするのであった。

この企画に(一社)日本運動施設建設業協会(代表理事 坂内善次郎氏)が賛同して、「是非、その企画に参加して一緒にやらせて欲しい」との申し出があり、東京都支部デントで、一緒に福島市産米と喜多方市産米を販売することになった。福島市産コシヒカリの新米を250kg購入して、毎日50〜80袋(会場)に輸送した。販売は、来場者に主旨を説明して、1袋300円以上での義援金の協力を呼びかけた。

毎日入荷したものは、2時間以内で完売した。集まった義援金は、東京都支部の分だけで、8万8136円となり、福島県支部に全額送金した。(一社)日本運動施設建設業協会の実施分では3万1561円の義援金が集まった。

このイベントで判ったことは、安全が証明されれば、市民の皆さんは、復興に協力したいと沢山の人が思っていることである。

東京大会では、この他に、「東京の街路樹 写真展」、「球根の掴み取り大会」、「造園に対する認識度のアンケート調査」等を実施した。

多くの来場者があり大きな盛り上がりを見たので、日造協の活動を大いにアピールすることができた。

北陸地方整備局と意見交換

北陸総支部は11月1日、新潟市中央区の美咲合同庁舎で、北陸地方整備局との意見交換会を行った。

北陸総支部からは磯部久人北陸総支部長をはじめ14名が出席、本部からは高梨雅明常任顧問が出席、北陸地方整備局からは大寺伸幸企画部長ら7名が参加した。主な議題は、北陸3県で16箇所、整備局管内21箇所を実施している緑化事業や富山の「みどりの愛護のつどい」などの活動を「造園フェスティバル」に連動させる可能性の検討や、壁面・屋外緑化の推進、直轄国道

の緑化推進と植栽基盤診断等の実施拡大、直轄国道の植栽維持管理、河川の外来植物の除去、有資格者の活用、市場化テストの進捗などが議論された。

続いて実施された意見交換では、北陸総支部・支部からの「国道、河川等で除草剤の併用はできないのか?」との問いに、整備局は「世論が厳しくなり、使用していない。むしろ、除草剤の安全性、使用方法等についての積極的提案があれば聞きたい」と北陸総支部・支部に「防草対策として、中央分離帯や路肩のコンクリート化が進んでいるが、目地から雑草がでており、刈らざるを得ない状況ではないか?」、整備局に「検証を進めているところ。提案していただきたい」と多岐にわたる有意義な意見が交わされた。

近畿総支部・支部は11月11日、福井市内(AOSSA)で、近畿総支部役員連絡協議会の開催とともに、本部との交流会を開催した。

近畿総支部・支部から坂上信明総支部長ほか51名、本部から藤巻司郎会長、河原幸恵総務課長、横石ひとみ総務係長が出席した。

坂上総支部長、藤巻会長挨拶のあと、河原総務課長より日造協本部の活動状況と説明、近畿総支部の現状と課題を話し合った。

主な議題は、会員の減少対策としてメリットを打ち出すこと、事務局運営のスムーズ化、事務処理の簡素化、街路樹剪定士・植栽基盤診断士など日造協の認定資格の認知拡大策、支部活動助成金等について、法律改正による地方整備局から地方自治体へ連絡の徹底、支部活動助成金活用の活用効果など意見交換を行った。

日造協 植木協、施設業、コンサル協)は11月22日、福岡県福岡市の福岡建設会館で、第29回緑化懇談会を開催した。

当協会からは、白川「緑の区間のクスキ移植(熊本県支部)、家畜伝染病「口蹄疫」発生に伴う防除活動(宮崎県支部)、屋上緑化(薄層試験施工等)について(鹿児島県支部)をそれぞれ報告した。

九州地方整備局からは、景観形成管理システム、白川「緑の区間」の整備、計画的な道路管理、海岸事業における植栽事例、営繕事業における緑化事例、海の中道海浜公園子供広場再整備などについて報告があった。

続いて行われた意見交換では、道路緑地管理について画一的な基準ではなく地域の実情や台風に応じた剪定等の必要性、街路樹剪定士・植栽基盤診断士の活用、造園建設業の保有機材を活用した防災協定の締結の

ある植栽、周辺施設の利用に合わせた動線と滞留

第10回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 会員が受賞 国土交通大臣賞・環境大臣賞

歴史的景観が調和した魅力ある都市の中庭を創出した点がオフィス街における緑化空間の好例として高く評価された。

「郁文館夢学園」は、校舎4階の屋上に果樹園、菜園、ハーブ園などを設け、パーゴラやフェンス、ハト小屋に至るまでツル植物による緑化を行い、植栽の豊かさや表情を五感で感じることが出来る。

生徒や保護者に学校の大きな魅力として認識され、農業や環境学習に積極的に利用されている点が学校緑化の好例として高く評価された。

スペースの積極的な配置など、現代の緑化技術と

日造協賛助会員の紹介 37 (株)ミロモツクル

当社は国産木材の良さ、特長を有効に維持して、長期間の使用を可能とする木材保存処理の研究から自然に優しく毒性のない防腐・防蟻・寸法安定を特長とする化学改質木材保存処理(モックル処理)を用い、木材の有効利用促進に努めている会社です。

木の持つ持っている命の温もりや肌合い、強さ、木と人の心の通い合いから生まれ

06-6390-0089

近畿総支部・支部は11月11日、福井市内(AOSSA)で、近畿総支部役員連絡協議会の開催とともに、本部との交流会を開催した。

日造協 植木協、施設業、コンサル協)は11月22日、福岡県福岡市の福岡建設会館で、第29回緑化懇談会を開催した。

「財政・運営に関わる今後の検討方向について」で示された「検討課題」への取り組み体制を受け、今後各委員会において議論を行う際のたたき台を作成した。

「本物とは何か」

現在、私たちの周りには多くの仮想現実の世界が広がっています。ネット上の世界で魚を飼育したり、植物を育てたり仮想の家族を作ったり……ツイッターやフェイスブックなどの直接顔を合わすことの無いコミュニケーションなど、生きていく温度を感じない方法での関係が多いように思えます。

被災した方々にとって、顔と顔を合わせ、手のぬくもりを伝えるそんなことが大きな力になるのではないのでしょうか。樹木や草花は人を癒す力があると言われます。

それは人工の緑では得られないものであり、今のような時代だからこそ人が生きていくうえで必要不可欠なものだと思います。

私たちは唯一生き物を扱う建設業の造園にたずさる者としてフェイクではない本物の緑を通し、多くの方々が集い癒され、活力を生み出す空間を提供することで、人と自然の接点を作り出し社会に貢献し、必要とされる業界になっていく。

北 総一郎 北造園(株)

委員会等の活動

○運営会議(11月2日) 各委員会等からの報告事項及び、財政・運営に関する課題への今後の検討方向、街路樹剪定士学科試験等について審議した。

○運営会議(12月1日) 各委員会等からの報告事項及び、広報日造協新年号のロゴマーク、フロリアード2012日本国政府出展への協力等について審議した。

○総務委員会(広報部会)(11月22日) 広報日造協11月号(3月号)の紙面内容、パンフレット、40周年記念誌、原稿執筆料等謝礼支払い基準(案)等について審議した。

○総務委員会(正副委員長会議)(11月28日)

事務局の動き

11月

7(月) 検定委員会 運営会議

10(木) 造園施工管理技術検定 実地試験対策講習会

11(金) 登録造園基幹技能者講習会11回

11(金) 近畿総支部・支部交流会

18(金) 登録造園基幹技能者特別講習

22(火) 沖繩総支部・支部交流会

22(火) 植栽基盤診断士認定試験(実技試験) 東京(20日) 九州総支部と九州地方整備局企画部との意見交換会 RLA資格認定試験

12月

1(木) 運営会議

8(木) 植栽基盤診断士認定委員会

9(金) 街路樹剪定士指導員研修会(10日)

12(月) 九州総支部・支部交流会

12(月) 登録造園基幹技能者講習試験委員会

1(月) タイチエニマイ園芸 博覧会オープニングセレモニー等(14日)

14(木) 総務委員会(全国)

15(木) 関東・甲信総支部・支部交流会

16(金) 技能五輪全国大会(19日) 中部地方整備局道路部への要望活動

21(土) 新年造園人の集い

21(土) 登録造園基幹技能者特別講習

21(土) 全国造園デザインコンクール 審査会

26(木) 登録造園基幹技能者講習(27日)

協 会 だより

総支部、支部、事務局からの記事を紹介します

緑 滴

自分自身もネットを利用し、活用しているのだからすべてを否定するつもりは無いのですが、合理的で無機質な感じがなんとなく冷たく感